

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhg@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhg.org/

つとむくんの つとむくんのつぶやき「部落問題学習って？」



部落差別の解消のための特別措置法が失効（2002年3月）して20年以上たちました。この20年余りの間に、部落差別は人権全般の中の一つの課題として扱われてきました。その結果、授業の中で子どもたちの学ぶ機会が減り、若い教師も「部落差別」「同和問題」を知らないまま教壇に立つ人が増えてきました。同時に「部落差別」「同和問題」という言葉は知っていても、具体的内容や今起こっている部落差別を知らない教師も多くなっています。結果、部落問題学習をすることへの不安や躊躇を感じている教師が少なくないようです。

また、「まだ、部落差別ってあるの」「もう昔の話では？」「もう部落差別はないでしょ」などの声を多く聞くようになってきました。

このような現状を鑑み、2017年に『はじめてみよう！これからの部落問題学習』を出版することになりました。それからもうすぐ8年になります。思っていたより多くの方に読んでいただいたことに感謝しています。このことは、「部落問題学習」をするために様々な知識等を求めている人が多くいることを示していると言えます。この8年の間に、インターネット上での差別が様々な形で発信されるようになってきました。また、結婚や住宅等の購入に絡んでの問い合わせや差別発言、落書きも後を絶ちません。この現実を踏まえると共に、今教師が求められている課題を把握し、それに応えていくために『はじめてみよう！これからの部落問題学習』の続編をつくることにしました。

今、「特措法」の失効と「個人情報保護」という名目により、どの子どもが「部落」に関係があるのか知ることもなく、また共有もされることもないのが現実ではないでしょうか。どこがその差別の対象とされている地域かも知らず「部落問題学習」がなされています。部落の人々と会うこともなく、どのような体験をしてきたのかも直接聞くこともなく、部落の人々がどのように差別を捉えているのか、生活の中で悩むことがあるのかなども全く知ることもなく「部落問題学習」がされているのではないのでしょうか。他の差別や人権問題の学習は当事者抜きになされているのでしょうか。そんなことはないと思います。部落差別だけが当事者抜きで学習されているのです。何故なのでしょう。これらの答えを一緒に見つけ出し、本来の部落問題学習へと変わるべきだと思います。解放教育（同和教育）、解放保育（同和保育）が大切にしてきた「差別の現実に学ぶ」の意味

を今こそ捉えなおし、部落問題を自らの問題として教育・啓発に共に取り組んでいくための学びの本を提供していきたいとの強い思いを持って、続編を制作していきます。

今号のもくじ

- ▶1面…つとむくんのつぶやき
- ▶2面…人権セミナー第4回のご案内
- ▶3面…えほんの紹介「もこもこもこ」
- ▶4面…人権教育2024年度ひょうご学習会／事務局から

(一社) ひょうご部落解放・人権研究所

事務局長 細田 勉

(一社) ひょうご部落解放・人権研究所 2024年度人権セミナー**《第4回》震災と人権—阪神・淡路大震災30年に考える****講師：増島智子さん（被災地 NGO 協働センター）**

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災では6,434人が亡くなり（3人が行方不明）、たくさんの方々の生活が一変しました。特に社会的に弱い立場の人が大きな被害を受けたことが特徴と言われます。

それから30年、2011年3月11日の東日本大震災を始め、多くの震災、水害などが起きていますが、阪神・淡路大震災で問題となったことは解決されたのでしょうか。

被災地 NGO 協働センターは、1995年1月19日に結成された阪神大震災地元 NGO 救援連絡会議の分科会の一つからスタートした団体で、生きがい仕事づくりの「まけないぞう」事業や阪神・淡路大震災での経験を活かした災害救援、足湯ボランティア、寺子屋セミナー、提言活動などに取り組んでいます。

セミナーでは、阪神・淡路大震災のボランティア活動をきっかけに被災地支援活動に取り組んできた増島智子さんに、阪神・淡路から30年にあたっての思い、2024年1月1日に起きた能登半島地震の被災地の状況や支援活動の中で気づいた課題などについて話していただきます。

■日時：2025年2月15日（土）14：00～16：00（13：30受付開始）

■参加資料代：一般：1000円／定期購読（個人）・学生・賛助会員：500円
正会員：無料 ※特別会員の方は無料クーポンをご利用ください。

■場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室（神戸市中央区山本通4-22-15）
※オンライン配信有（zoomミーティング）

■定員：〔会場〕60人、〔オンライン〕90人

■申込方法

上記QRコードから申込ページへお入りいただけます。その他、お電話、メール等でもお申し込みいただけます。

■その他

- ・ご参加は、セミナーの趣旨に賛同する人に限ります。
- ・録音・録画や資料の二次利用などは固くお断りいたします。
- ・会場ではマスクの着用等、感染対策にご協力をお願いします。



申込ページ

2025年度も開講！「ひょうご人権総合講座」及び「人権教育実践講座」

2024年度「ひょうご人権総合講座」及び「人権教育実践講座」には、たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。2025年度の講座につきましては、みなさまが参加したくなるような講座内容を企画中です。乞うご期待。

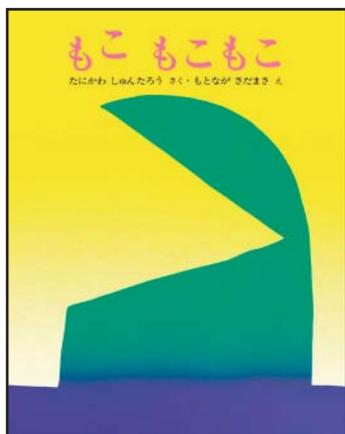
開催時期（予定）：ひょうご人権総合講座 2025年8月～12月の木曜日
人権教育実践講座 2025年8月

えほんの紹介



『もこもこもこ』

(谷川俊太郎 作 / 元永定正 絵、文研出版、1977年4月) 1,650円(税込)



「しーん」と静かで何も無いところから、「もこ」って何かが膨らみました。少し後からキノコのような「によき」が生えてきます。「もこ」と「によき」はどんどん大きくなって、「によき」は「もこ」にもぐもぐと食べられてしまいました。食べられた「によき」は赤い丸になって「もこ」のお鼻みたいに生えてきて、「ぽろり」と落ちてしまいます。そしてどんどん大きく膨らんで、太陽のようにぎらぎらしてから、ぱちんと弾けてしまいました。「もこ」と「によき」はどうなってしまおうのでしょうか……。

文字だけで説明するのがとても難しいこの絵本、実は子どもの心をくすぐるツボが満載。1977年に発行された大ベストセラーの絵本です。



この絵本は長女ちゃんの出産祝いにと、事務局のHさんからいただいたのですが、最初はおもしろさがさっぱり分かりませんでした(笑)ところがどっこい、何回か読みかえすうちに、長女ちゃんと次女ちゃんはびっくりするくらいハマってしまいました。

私が絵本を読み始めると、「もこ」と何かが膨らむ最初の場面で、なぜか二人とも口元がゆるんできます。「もこ」がどんどん大きくなってきたら、それに伴って「キャー！」と二人のテンションも上がってきます。「によき」が「もこ」に食べられると、二人ともパクッと食べる真似をして、一緒になってもぐもぐします。ぱちんとはじける場面では、手をぱちんと叩きます。出てくる言葉は少ないですが、その一つひとつが子どもたちには心地いい言葉のようです。長女ちゃんも次女ちゃんもページがめくられるのを今か今かと心待ちにしています。そして、読み終わると必ず「もうっかい〜！」です(短いので特別サービスでいつも2回読みます)。

この絵本がステキなのは、1歳と5歳がそれぞれに楽しめること。次女ちゃんは、まさにおしゃべりが上手になっている真っ最中。この絵本に出てくる言葉がどんぴしゃな様子で、手を叩いたり、手のひらをひらひらさせたりと、覚えてた言葉とともに全身で絵本を楽しんでいます(「ぽろり」のところは「ぼりより」と言うので、かわいくて何回も言わせたくになります)。最近、字が読めるようになってきた長女ちゃんは、はりきって次女ちゃんに読み聞かせをしてくれます。ゆっくりですが、上手に読み進めていきます。自分で読めることがうれしくて自信にもなっているようです(いつも「ふんわ、ふんわ、ふんわ」の部分「ふわん、ふわん、ふわん」と読んでしまうところも、これまたかわいいのです)。そんな楽し気な二人を目にして、私もすっかり『もこもこもこ』の大ファンとなったのでした。(ひ)

■人権教育ひょうご 2024 年度春季学習会

『人権教育としての包括的性教育

～性暴力・虐待・DV 被害当事者の視点から～』

◇日 時：2月16日（日）14：00～16：00【受付13：30】

◇場 所：ラッセホール 5階「サンフラワー」

神戸市中央区中山手通4丁目10-8

市営地下鉄「県庁前」駅より約500m、阪神・JR「元町」駅より約600m

◇講 師：柳谷 和美さん

（おやこひろば桜梅桃李（おうばいとうり）代表／

心理カウンセラー／親子カウンセラー）

▶プロフィール

幼少期の性暴力被害、両親からの「悪気無き精神的・身体的暴力」による自己肯定感の低さから、自暴自棄な思春期を過ごす。デートDV被害、孤独な子育てから、子どもへの虐待、うつ、アルコール依存、離婚、子連れ再婚などを経て、2006年カウンセラー資格を取得。学び、実践する中で、自身の傷ついた心とも向き合い「生き方」を変えることができた経験から、どんな人にも、「生きる使命」がある！と確信。人間の可能性をどこまでも信じ抜くカウンセリングを行っている。

2008年4月、子どもへの虐待防止、母親の横のつながりや心のケアを目的とした「おやこひろば桜梅桃李」を立ち上げる。子どもたち、育てる親たちを、加害者にも被害者にもしない子育てを伝える、泣いて笑って癒される講演会が好評。



◇主 催：人権教育ひょうご（「人権教育のための国連10年」兵庫県推進連絡会）

◇問合せ：（一社）ひょうご部落解放・人権研究所

TEL：078-252-8280 / mail:blrhyg@extra.ocn.ne.jp

▷参加ご希望の方は当研究所までご連絡ください。

事務局から

- 新しい年を迎えました。今年は何かいいことがあるかなと思っていたら、5月には10人目の孫が生まれます。今ですら盆や正月は保育所みたいになる我が家です。どうなることか。(Ho)
- フジテレビでは多くのスポンサーがCMの出稿を取り止めたため、公共広告機構のCMを大量に流しています。そのなかでも「決めつけ刑事（テカ）」は良作だと思います。(ka)
- 1月17日は長田の追悼イベントに行きました。30年前の震災当時に避難所を回っていたバンドの演奏で、涙ぐむ聴衆から曲の合間に何度も「ありがとう」と声がかかっていたことにじーんとしました(H)
- そろそろ長女ちゃんのラン活の時期だそうです。平均価格6万円、必須じゃないけど買わざるを得ない。男女問わずカラーの選択肢は広がったけど、持つ・持たないも気軽に選べたらなあと思います。(ひ)

